

都道府県番号	45
都道府県名	宮崎県

【
*重点をおいた観点にチェックすること

学校名及び規模

学校名	小林市立南小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	20
児童数	53	50	50	62	60	63	3	341	

研究の概要

(1) 研究主題

「確かな学力」の育成を図る授業の創造
～国語科・算数科における個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～

(2) 研究主題設定の趣旨

- ・ 「読み・書き・計算」の基礎学力をさらに高めるとともに、学校と家庭との連携を推進して家庭学習の習慣化を図り、児童に自ら学ぶ習慣を身に付けさせる。
- ・ 確かな学力の育成のための個に応じたきめ細かな指導方法や指導体制の工夫を行う。
- ・ 「読み・書き・計算」の基礎学力を高める教材の開発し、補足的・発展的な学習によるトレーニングを行う。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫

全体研究会の下に、二つの部別研究会（指導体制・連携部と教科別研究部）を設置している。また、指導体制・連携部を、指導体制班と連携班の二つの班で構成するようにし、学校における研究実践と家庭との連携がより円滑に進むよう配慮している。

(2) 研究の実際

ア 仮説

- ・ 基本的な学習訓練や繰り返し学習の徹底、少人数指導や一部教科担任制など、個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫を行えば、児童の学習意欲が高まり、「確かな学力」を育成できるであろう。

- ・ 「読み・書き・計算」の基礎学力を高める教材を開発し、練習や補足的・発展的な学習によるトレーニングを行えば、基礎学力の確実な定着が図れ、「確かな学力」を育成できるであろう。
- ・ 学校と家庭との連携を推進し、家庭学習の手引きを作成するなどの方法を通して家庭学習の習慣化を図る支援を行えば、児童に自ら学ぶ習慣が身に付き、「確かな学力」を育成できるであろう。

イ 研究内容・方法（南小のレインボープラン） _____線部 平成15年度重点

個に応じたきめ細かな指導方法の工夫

個に応じたきめ細かな指導体制の工夫

- ・ 少人数指導の工夫、一部教科担任制の導入、校時程の見直し
漢字力を高める教材開発
計算力を高める教材開発
家庭・中学校との連携
 読む力の育成
 評価及び通知表の在り方
- * 個に応じたきめ細かな指導の工夫を重点的に研究していく観点から、副題・仮説の見直しを図った。また、研究内容についても、副題・仮説との整合性を図るために修正を加えた。

(3) 研究の成果と課題

ア 成果

小学校基礎学力調査（県教育研修センターの結果：3年生の例）
 国語の平均点～78.8点（西諸管内68.5点 県69.9点）
 算数の平均点～82.5点（西諸管内77.5点 県77.3点）

きめ細かな指導方法の工夫や、少人数指導・一部教科担任制などの指導体制の工夫を行ったことによって、意欲的に学習に取り組む児童が増えてきた。

本校独自の教材プリントを作成し、授業中や放課後、家庭学習の中で、開発教材を活用したトレーニングを繰り返してきたことで、児童に基礎学力が身に付いてきた。

イ 課題

少人数指導と一部教科担任制の成果と課題をまとめ、指導体制の改善を図り、より充実した手立て・工夫をさらに進めていく。

発展的な学習の在り方について研究を深めるとともに、本校独自の発展的な教材の開発を進める。

家庭と中学校との連携を深め、小・中学校で一貫性のある指導をしていく。

学力把握のための学校としての取組

基礎学力調査（県教育研修センター）（3・5年 国語・算数・社会・理科）10月
教研式標準学力検査（CRT）（全学年 国語・算数）2月

（4）研究成果の普及の方策

学力向上フロンティアスクール・授業公開

日時 平成16年1月21日（水） 13：40～16：00

場所 小林市立南小学校（同じくフロンティアスクールの小林市立小林中と合同の
授業公開・研究発表）

テーマ 「確かな学力」の育成を図る授業の創造
～国語科・算数科における個に応じたきめ細かな指導の工夫を通して～

対象 管内の小・中学校
西諸県地区学力向上推進地区協議会
PTA

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント

- ・ 学力向上のためには、個々の教師の指導力向上が不可欠であるととらえ、指導方法の改善等を学校を挙げて取り組んでいる。
- ・ 基礎学力の定着をめざして、漢字学習や計算に関する学校独自の教材開発を積極的に行っている。